

巻頭言

愛知の臨時教員運動は、1人の臨時教員が「第10回全国臨時教員学習交流会」(新潟、1979年)に参加したことから始まりました。その1年後、愛知「講師の会」準備会は、初めてパンフを発行しています。

それが、『愛知の臨時教員のさけび - 臨時教員の実態と私たちの要求 - 』(1980年7月)です。

その序にある「臨時教員」Aさんの手記は、私たちの運動の原点ともいえる内容です。Aさんは手記の最後を、次のように結んでいます。

..... 教育の仕事は、時には苦しいことがあるが、しかし、同時に彼ら(子どもら)の成長がたえず確認できるという意味において、非常に働きがいのある仕事であると思う。でも、産休講師の短い期間では、子どものようなすを科学的にとらえ、成長させていく過程をつくっていくことはたいへん困難な問題である。講師としての、教育実践の限界をこんなところを感じながら、講師としての経験を、教員採用選考の場で、ぜひ評価の対象にしてほしいと願っている。

そして、最後に、講師の要求は、単に講師だけの要求ではなく、教師全体の生活と、要求を実現していく問題であり、さらには、日本の教育そのものを豊かにしていく問題でもあると確信している。

この「確信」どおり、その後の運動は、教育の共同行動を広げながら、臨時教員の待遇や採用制度の改善をひとつずつ実現してきました。

しかし、臨時教員はいまだに「身分なき教師たち」です。

愛知の臨時教員運動は今年で20周年を迎えました。

この記念誌は、そのあゆみをまとめたものです。「身分なき教師たち」の闘いの姿と、改善運動を支えた教訓を整理してみました。

愛知の臨時教員運動のあゆみが、全国の未組織の「身分なき教師たち」を励まし、改善運動に立ち上がる人々の参考になれば幸いです。

(編集代表 山口 正)